

作成年月日	平成26年9月8日
作成部局	企画県民部芸術文化課

兵庫陶芸美術館特別展「没後50年 板谷波山展」

兵庫陶芸美術館の秋の展覧会として、特別展「没後50年 板谷波山展」が9月6日より始まり
ました。

1 特別展の概要

日本近代陶芸の巨匠・板谷波山（いたやはざん・1872－1963）の没後50年に際し、回顧展を
開催します。明治5年茨城県真壁郡下館町（現・筑西市）に生まれた波山は、東京美術学校（現・
東京藝術大学）で木彫を学んだ後、赴任した石川県工業学校で本格的に陶磁の研究を始めます。
同36年、東京田端に築窯し、郷里の筑波山に因んで「波山」と号し、陶芸家としてスタートを
切りました。昭和9年に帝室技芸員に任命され、同28年には陶芸家として初の文化勲章を受章
するなど、近代陶磁史に大きな足跡を残しています。

波山は、西洋のアール・ヌーヴォー様式を摂取し、さらに東洋の古典意匠を融合させた図案
や文様を、卓越した彫刻技術と最新の釉薬技術によって、色彩豊かに表現しました。その作品
は格調高い美しさに満ち、今なお多くの人々を魅了しています。

2 展覧会の特徴

(1) 「初物尽くし」の陶芸家

波山は昭和28年に陶芸家として初の文化勲章を受章しました。また平成14年には、今回
出品される「葆光彩磁珍果文花瓶」（東京・泉屋博古館分館所蔵）が、近代以降の陶芸作
品として初の国指定重要文化財に指定されました（従来は江戸時代以前）。

(2) 関西で唯一の会場

昨年10月、茨城県陶芸美術館を皮切りに、全国4会場を巡回している本展では、当館が
関西唯一で最後の会場となります。波山の作品を100点以上まとめて見られる機会も、没
後40年の巡回展が平成16年4月に京都高島屋で行われて以来、およそ10年ぶりとなり
ます。

(3) 没後50年を記念した大回顧展

10年前の没後40年展以降、それまで古い写真でしか確認できていなかった作品が再発見
され、あるいは従来全く存在が知られていなかった「葆光彩磁孔雀尾文様花瓶」（茨城県陶
芸美術館所蔵）が見つかるなど、波山の研究は飛躍的に進歩しました。本展では新出の作
品・資料など近年の研究成果をもとに、波山芸術の全貌を回顧します。

3 出点数 約140点

4 会 期 平成26年9月6日（土）～11月30日（日） （74日間）

5 開館時間 10月31日まで10～19時、11月1日から10～18時
※入館は閉館時間の30分前まで

6 休 館 日 月曜休館（ただし、月曜が祝日の場合は開館、翌日休館になります。）

- 7 観覧料 一般 1,000 (800) 円、大学生 800 (600) 円、高校生 500 (400) 円、中学生以下無料、()内は前売り及び、20名以上の団体割引料金
 ※17時以降に観覧される場合には、夜間料金(半額)になります。
 ※9月30日(火)までは、夏の節電の取組(クールスポット)により、観覧いただいた方(有料入場に限る)には、「兵庫の陶磁」展(H26.12.13~H27.2.15)の招待券を配布します。

8 関連イベント

- (1) 当館学芸員によるギャラリートーク

日時：平成26年9月20日(土)、10月25日(土)、11月29日(土)

- 9 主催 兵庫陶芸美術館 毎日新聞社
- 10 後援 兵庫県、兵庫県教育委員会、篠山市、篠山市教育委員会、丹波市、丹波市教育委員会、(公財)兵庫県芸術文化協会
- 11 協力 丹波立杭陶磁器協同組合
- 12 協賛 日本写真印刷

13 主な出品作品



ほこうさいじちんかもんかびん
 葆光彩磁珍果文花瓶

大正6年(1917)

泉屋博古館分館【重要文化財】



ほこうさいじくじくおもんようかびん
 葆光彩磁孔雀尾文様花瓶

大正3年(1914)頃

茨城県陶芸美術館



さいじかびん
 アマリリス彩磁花瓶

大正7年(1918)

出光美術館



ひょうかじせんとうもんかびん
 氷華磁仙桃文花瓶

大正12年(1923)頃

茨城県陶芸美術館

【茨城県指定有形文化財】



せいじしもかぶらかびん
 青磁下蕪花瓶

昭和15年(1940)

出光美術館



ようへんちようようじつるくびかびん
 窯変朝陽磁鶴首花瓶

昭和13年(1938)

京都国立近代美術館

<問い合わせ先> 兵庫陶芸美術館 学芸課、企画・事業課 電話：079-597-3961